

会 議 要 旨

会議の名称	令和元年度 川越市産業振興審議会		
開催日時	令和元年7月11日(木) 10時00分 開会 ・ 12時5分 閉会		
開催場所	川越市役所 第5委員会室		
議長(会長) 氏名	会長 新津 重幸		
出席者(委員) 氏名(人数)	副会長 小谷野 和博 委員 小倉 元司 委員 内田 光夫 委員 出野 康夫 委員 見崎 秀行 委員 目良 聡	委員 定森 隆 委員 松山 潤 委員 山口 日出美 委員 本郷 誠二 委員 伊勢 勢子	11人
欠席者(委員) 氏名(人数)	委員 竹澤 穰治 委員 中野 英幸	委員 高橋 正浩	3人
事務局職員 職氏名	産業観光部 部長 井上 敏秀 副部長(産業振興課長) 栗生田 晃一 雇支援課長 福田 和佳枝 観光課副課長 中村 誉 産業振興課 副課長 中 孝 副主幹 永堀 幸恵 主 査 原島 高志	農政課長 小野寺 雅樹 主 幹 三佐崎 匡史 副主幹 町田 純一 主 任 吉田 祐美	
傍聴人(人数)	2人		
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 川越市産業振興ビジョン(平成28年度～令和2年度)の進捗状況について 4 閉会		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度川越市産業振興審議会 次第 ・ 川越市産業振興審議会委員名簿 ・ 川越市産業振興ビジョンについて ・ 資料1 川越市産業振興ビジョンの体系について ・ 資料2 川越市産業振興ビジョンの数値目標の達成状況と推進事業の進捗状況について ・ 別紙 川越市産業振興ビジョンの推進事業 進捗状況 ・ 数値目標参考資料 		

議 事 の 経 過

議題・発言内容・決定事項

(委員の発言、意見等を要点筆記する。)

川越市産業振興ビジョン（平成28年度～令和2年度）の進捗状況について、事務局から資料に基づき説明後、出席者による自由討議が行われた。討議の概要は以下のとおり。

【発言内容】

(会長) 推進事業の進捗率は88パーセントで、非常にスムーズに進捗している。

ビジョンについてご意見をいただく前に、私と副会長から事務局に検討いただきたい問題について提案する。

まず、川越だけではないが、観光客の増加に伴うゴミや交通等の観光地特有の問題について。この問題により、市民の中心市街地の利用が減れば、中心市街地のコミュニティの場としての機能が阻害される恐れがある。次に、人材不足については外国人や高齢者の雇用の創出が急務であり、具体的な施策を検討する必要がある。続いて、この場での回答でなくても良いが、健康食レストランについてどのようにして進めていくのか伺いたい。また、立門前の旧織物市場や旧鶴川座については、想定以上にトラブルも多いようだが、特に旧鶴川座は来年3月までに実施しなければならないと報告を受けているので、遅滞なく進むよう意見する。それから、消費増税に関わるキャッシュレスやポイント還元については、それぞれの事業者が手を打つと同時に市の方もかなり積極的に支援いただいているが、引き続きお願いする。QRコードなども普及しはじめており、ビッグデータの利用が事業者にとって競争力の強化につながる。

(副会長) 中小企業の活性化については、ものづくりブランドや創業支援もそうですが、中小企業の生産性の向上が課題となってくるかと思う。人手不足についてもITなどを活用し、生産性をあげることが必要である。ビッグデータの活用も大手ではなく、中小零細企業が活用できるようなフィードバックの方法を、産業振興としては考えていくべきである。賑わいの創出については、留意しなければならないのは、小売業では通信販売が増加しており、仮想空間でいかに川越市内の事業者にアクセスしてもらうかが求められている。また、オーバーツーリズムについてはいかに住民との調整が図れるかが重要になってくる。外国人や高齢者の雇用の創出の話があったが、人手不足については主婦が子どもを安心して預けて働ける環境の整備も必要である。

(会長) 商店街については、全国チェーンの店舗が増えており、それらは観光客が減少すればすぐ撤退してしまう可能性もあり、一気に空き店舗が増える危険性がある。提案は以上。各委員から意見をいただきたい。

(委員) 観光客が増えすぎてしまう、特に外国人の団体が増えてしまうと日本人の所得の高い層が来たいと思えなくなるのではないかと。川越がそうなってしまう可能性にも注意が必要かもしれない。その中で、食べ歩きが中心では消費額が上がらず、ゴミが出て余計に経費が掛かってしまう。今後は「大人の川越」といったブランディングをと思う。消費されるまちから価値を創出するまちへ。それと川越市場につい

て質問したい。仲買事業者の撤退があるが、状況はどうなっているのか。

(事務局) 川越卸売市場については、国の法改正があり来年4月施行され、市場を続けるのであれば届出を行うことになっており、年末かあるいは年明け後にその4月から新しく変わるような形で認可の申請をしていく準備をしていると聞いている。仲買事業者についてはご指摘のとおり撤退している状況であり、当初からすると空きが出てしまっている。空いている敷地に関しては、企業への賃貸や加工工場を敷地内につくるなどを考えており、4月には小売店がオープンしたと聞いている。今後はバーベキュー場をオープンさせて、観光客を呼び込みたいと考えているとのこと。

(委員) 川越は埼玉県サイクリングロードとしても恵まれた環境なので、自転車を使ったツーリズムで市場に来てもらって、市場で揃えた食材でバーベキューしてもらって、そういうビジネスが生まれれば先がひらけると思う。

(委員) 先ほど出た健康食レストランについて伺いたい。根本的に方向性が変わると聞いているが。

(事務局) 「健康食レストラン川越」の事業については、平成28年から取り組み、川越産農産物の消費拡大やあるいは認知の向上ということを目指しており、観光客に川越産農産物の良さを知っていただくというのがそもそもの目的であることから、中心市街地でハード整備を行うことを計画し、事業用地の選定や事業者が参入できるか検討していた。財政的にも既存の技術を利用したいと考え、観光客が無料で休憩できる元町休憩所内に小さな厨房を造り軽飲食を提供できないかという計画を進めていたが、休憩所を兼ねながらでは採算が合わないということもあり、なかなか事業者の参入が難しいことから、既存の飲食店さんにご協力をいただくことを考えている。具体的には、目的である川越産農産物の流通促進、認知度の向上、消費拡大には、農政課で川越産農産物にロゴマークをつけてPRしていく取り組みを推進しており、それと同様にキャンペーンとして川越産農産物を使ったメニューの提供などをしていただいて、それを市としても積極的にPRをしていくという方向で検討している。

(会長) 状況が資料と食い違っているのではないかと。報告をしっかりとってもらいたい。

(委員) 資料を見るとシニア起業の入門セミナーや起業の相談窓口もやっており、シニアで経営をやってみたい方への支援が充実している。初めて聞いたがワークス・コレクティブのような協同組合というのもある。地元の企業を積極的に応援していくと良い。観光客については、車道にはみ出して危ないと思う。道路事情は難しい問題だと思うが、解決に取り組んでほしい。それから、資料について、昨年度の決算はあるが、昨年実施したことが具体的にわかるとよい。

(事務局) 観光客の問題について、現在の取組み状況としては、ゴミの問題は昨年度から商店街さんと関係部署で話し合いの場を設け、どう進めていくか検討中である。交通の問題についても、主要県道でもあり規制等はなかなか難しいが、周辺自治体も含め、交通対策の協議会において対応を検討している。庁内でも関係部課長を集めた会議体を組織したところで、先の問題の他にも案内標識の多言語化やマナーの講習について、話し合いを進めている。

(委員) 別の審議会で学校給食の川越産食材が20%ということがあり、少ないように思った。また、新規就農者に対して3年程度の固定資産税の減免など支援があっても良いのではないかと思う。グリーンツーリズムでは、貸し農園で野菜をつくって持ち帰るだけでなく、親子で料理ができ、会話しながらつくって食べることができるような場所を、農業ふれあいセンターの改修に併せて設けたらよいのではないか。

(委員) 空き家の活用について、引き続き進めていただきたい。それから、公共施設の禁煙が始まり、裏通りの煙草のポイ捨てが増加した。観光地以外の場所でも外国人のルール・マナー・エチケットの問題はある。

(会長) 外国人については、消費額は日本人より大きいというところもある。

(委員) 製造業は空前の人手不足で、就職懇談会を行ってもなかなか人数が集まらない中、外国人や主婦には期待をしている。製造業では2割から3割程度が外国人で研修生も受け入れている。雇用する上での課題はアパートであり、文化の違いから苦情も多く、住民も怖がって注意できないため、指導が必要ではないか。今後も外国人労働者は増えると思われるので、日本の文化を勉強する機会を設けてもらえると助かる。それから、空き工場空き工場用地の情報発信事業とはどのようなものか。

(事務局) これは、工業団地に空いている用地があればホームページ上で情報発信を行っている。状況としては空いてる不動産がほとんどなく、掲載情報自体が不足している。

(委員) それで話は舞い込むのか。

(事務局) このページを見たかに限ったことではないが、通年でだいたい10件ほど川越市内に進出したい企業から問い合わせがある。

(委員) 中小企業の融資は、古くから地元で商売をしている事業者と新規参入した事業者で、審査や利率等で区別はあるのか。長くやられている方を積極的に支援してほしい。

(事務局) 何年続いていればという区別は難しいが、中小企業支援なので、大手企業いわゆる全国チェーン店が使えるものではない。また、古くからある商店への支援として、事業承継補助金制度を創設した。

(委員) 異業種交流会では商業者と農業者の交流会を行っているが、製造業でも製造業同士でも交流があればそこから取引が始まることもあり、同じものなら市内調達を行うことは地産地消の取組みとしても重要だと思う。お互いの工場の見学会もやるとよりよい。川越商工会議所と一緒に取り組んでいただきたい。外国人労働者の問題は中小企業にとっては大きい。大企業であれば自前で社宅も建てられるが、中小企業では難しい。ぜひ支援を検討してほしい。

(会長) 人手不足については過渡期にあり、新たな技術により解決される部分もあるが、当面は切実な問題となる。これだけの工業製品出荷額のある自治体であればその影響は大きい。

(委員) この変化が激しい時代に、計画はつくった段階から陳腐化が進む。目標値があまり意味を成していないのであれば、審議会の中では柔軟に書いてもよいかと思う。この計画を策定したときにはなかった問題についても、新たに加えて審議会にかけ

られると、次期計画にも役立つと思う。中小企業の融資について、増えたといっても件数が少ない。県や国の制度もあるかと思うので、市独自の目線で必要な方に資金が行き渡るようにすることが必要。

(会長) 時代の流れが読みづらくなっており、新しい検討材料として、市民の目線で審議することが必要。ビジョン自体は非常によく出来上がっている。今までの報告にプラスして、それ以外の動きも報告してほしい。

(委員) 人材育成事業とリノベーションによる空き店舗等再生事業支援について詳細を伺いたい(終了後事務局より説明)。ゴミの問題は食べ歩きのごみの話だと思うが、パッケージも含めてそのお店が売ったものであるから、他の店で負担するのは難しいという話だと思う。やはりその売った企業が観光客さんと商業として上手く進めていきたいと思うところ。また、通信販売については、市場がもう新しく移り変わってきているのかなと思うので対応してく必要がある。

(会長) 先ほど固定資産税の減免の話があったが、空き店舗の入居に合わせた措置が他市で検討されたことがあった。一案として良いのではないかと思う。

(事務局) 企業誘致では、新規に立地した企業に対し、固定資産税の全額ではないが、半額から年数に応じた割合の税額分を奨励金として交付している。それを商店にも応用が可能か考えたい。

(委員) 観光がこれだけ盛んな中で、川越まつりの山車の修理は市外へ依頼している。ただ補助金を出すだけでなく、職人の高齢化も進んでいる中、そういった職人を育成する施設なども考えてほしい。

【閉会】